



医療法人 明徳会 総合新川橋病院

～優秀な人材確保のために働きやすい職場環境を整備～

総務課長 紺野 清人 さん

託児室主任 川越 美和 さん

看護師 酒井 史 さん



紺野清人さん

昭和5年に眼科医院として設立されて以来長い歴史を持ち、質の高い医療の提供をめざす総合新川橋病院。全国の病院等で、看護師不足が問題となる中、優秀な人材の獲得に向けて、院内託児室の設置や充実した短時間勤務制度の導入など、働きやすい職場環境づくりを行っている。

総合新川橋病院にとってのワーク・ライフ・バランス

——ワーク・ライフ・バランスについてどのようなお考えを持っていますか。

紺野 昨今、全国的に看護師や医師が不足しております。そういった状況の中で、より働きやすく、ワーク・ライフ・バランスのとれた職場環境をつくり、優秀な人材を確保できるように、院内託児室を平成13年4月から設置しております。これによって子育てと仕事が少しでも両立しやすくなればと思っています。

さらに、当院では平成19年の4月に経営推進管理部という部署を新たに設置し、病院の経営、業務、教育等に参画しながら職員の為に休暇、賃金、又は就業規則や労働に関する検討を行い、推進しています。

こういった取組みによって、ご縁があって当院に入職してく

ださった職員の方が今後とも長く働きやすいと感じてもらえるような職場環境をつくっていきたいと考えております。

利用しやすい院内託児室

——院内託児室はどのように運営されているのですか。



左から、託児室主任の川越美和さん、保育士の会田朋子さん



院内託児室の様子

紺野 利用の料金は、1か月あたり2万5千円（食事、おやつ代を含む）です。この利用料の設定では、利用料だけで運営費を全てまかなうことは出来ず、持ち出しも多いので、経営側からすれば、もう少し料金を上げたいとも思うのですが、あくまでも職員の方の福利厚生を目的としておりますので、できるだけ料金は低く抑えて利用しやす

いようにしております。

託児室のスタッフの構成は、保育士が3名、保育補助が1名です。4名とも託児室開設からのメンバーです。

現在お預かりしているお子さんの人数は13人です。現状では定員の27人には達していませんが、来シーズン（春ごろ）あたりには定員いっぱいになると見込んでいます。

——託児室の運営でなにか苦労していることはありますか。

川越 いまのところ、特に大きな事故もなく無事に運営できています。しかし、小さなお子さんの場合、急に熱が出たり具合が悪くなったりします。熱の度合いなどにもよりますが、基本的にはそういった場合、親御さんに連絡をします。微熱程度であれば、そのまま預かるケースもありますが、高熱が出たときなどはお迎えをお願いしています。しかし、看護師の場合、シフトが入っていたりすると、患者さんもいらっしゃいますので、お迎えはすぐには難しい場合もあり、そういったことでは多少大変さを感じています。



働きやすい職場 に向けて

——育児休業から復帰した後はどのようなサポートをしていますか。

紺野 法定では1歳未満の子がいる場合を対象としている「育児時間」を3歳になるまで利用できるようにして、女性職員が1日当たり30分間ずつ2回の育児時間を取ることができます。また、これは短時間勤務制度と併用することもできます。

なお、短時間勤務制度は、対象者（満3歳未満の子がいらっしゃる職員の方）のほぼ全ての方が利用しています。

——残業を減らす努力をされているとの事ですが、どのような活動ですか。

紺野 余暇の時間を育児などいろいろなことに使ってもらいたいと思い、始めました。

ただ、他の一般的な企業と異なり、病院にはケアを必要としている患者様がいらっしゃいますので、実際にはすぐに帰るとするのは難しいこともあります。患者様が落ち着いていらっしゃる時には、なるべく早めに帰りましょうと声をかけあっています。また、育児で短時間勤務をしている職員については、優先的に残業なしで帰れるような体制をつくっています。

——そのほかにはどんな制度がありますか。

紺野 法定の「子の看護休暇」を拡充し、同居のご家族の方が看護を必要としているときにも利用できるようにしています（年間5日間）。これは、子の出生時に父親が利用することもで

きます。他の職員さんに遠慮することなく、必要なときに休めるようにこの休暇制度を設けました。

制度を利用して 育児との両立



看護師の酒井史（ふみ）さん

——酒井さんは育児休業を経験されたそうですね。

酒井 出産にともなって、1年間くらいお休みをしました。育児休業期間の最後の方は、自分が取り残されている感じがして、早く復帰したいという気持ちが強かったです。

しかし、育児を経験してスキルアップしたと思うこともあり、それは時間の管理が上手になったことです。子どもは現在、市の保育園に預けていますが、7時ごろ保育園に子どもをお迎えにいったあと10時までには寝かせてあげたいので、その間にいかに効率よくてきぱきとお風呂に入れてご飯を食べさせるのかというのを常に考えています。また、仕事も必ず時間内に終わるように計画的にやるようになりました。

——両立していく上で大変だと思われることは何ですか。

酒井 子どもが急に熱を出したときなど、突発的な休みがどうしても発生してしまいます。最近はあまり病気をしなくなりましたが、育児休業から復帰し

たばかりのときは、かなり頻繁にありました。職場のスタッフは、小さな子どもがいるということでもいろいろと配慮してくださいますが、やはり急に保育園から呼び出しがかかったりするのは大変でした。

——看護師を志したきっかけは何かあったのですか。

酒井 看護師になったのは、小学校のときに、養護学校と交流があって、福祉関係の仕事につきたいと思っていたからです。見返りを期待しているわけではないのですが、自分がやったことに対して、人から「ありがとう」という反応をうけとれるというのは、やりがいのある仕事だと思っています。

——今後の目標は何でしょうか。

酒井 もう少し子どもが大きくなって、手がかからないようになったら、院内の研修にもっと参加したり、仕事に関連した資格をとったりしてみたいと考えています。

病院概要



名称	特定医療法人(財団) 明徳会 総合新川橋病院
所在地	神奈川県川崎市川崎区 新川通1-15
設立	1930年
職員数	451名 (うち女性 345名)